

神楽通信

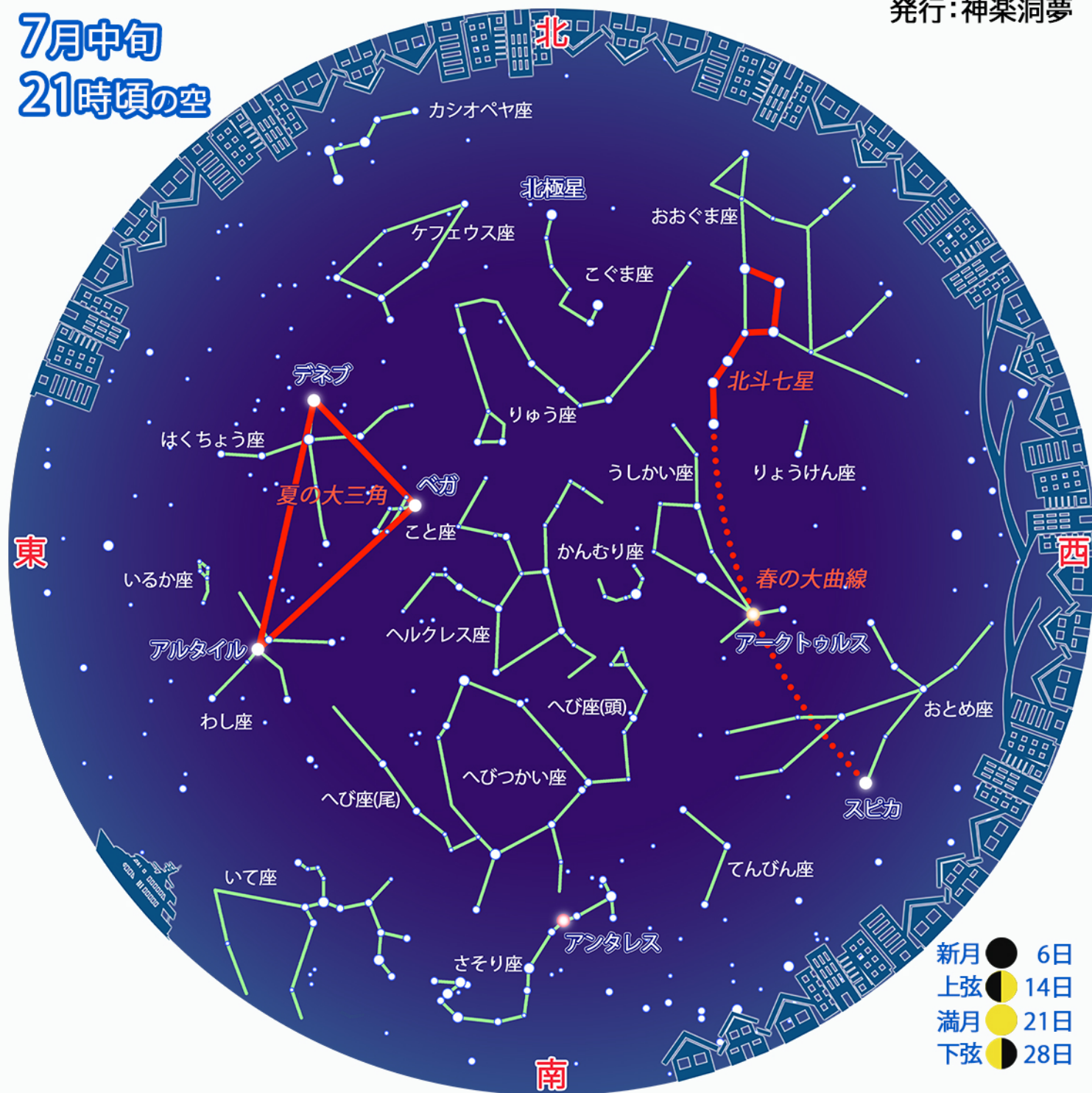
No.101

2024年

7月号

発行: 神楽洞夢

7月中旬
21時頃の空



まだ梅雨の明けないこの時期、晴れた日に星空を見上げると、「春の夫婦星」であるアークトゥルスとスピカは西の空に移り、東の空には「夏の夫婦星」とも言えそうな織姫星のベガと彦星のアルタイルが輝いています。夫婦の間にある天の川は街中では見えないため、街明かりのないところへおでかけして、七夕物語を思い出しながら、スターウォッチングを楽しんでみてはいかがでしょうか。

天の川にかける大きな“魚釣り星”

初夏の星空で、南の低いところに大きなS字を描くさそり座。

目印となる赤い輝きの1等星アンタレスから、右上の方に並んでいる三つの星がサソリの頭に、左下へと続くカーブがサソリの尻尾部分にあたります。

さそり座の生まれた古代メソポタミアや地中海世界などでは、南の空に浮かぶ大きなS字の星の並びと結びつけられるほど、サソリは身近な生き物だったのでしょう。

一方、日本や南太平洋の国々のような漁業の盛んな国や地域では、釣り針に見立てられることが多く、瀬戸内地方では「魚釣り星」と呼ばれて親しまれています。



さそり座の星の並び

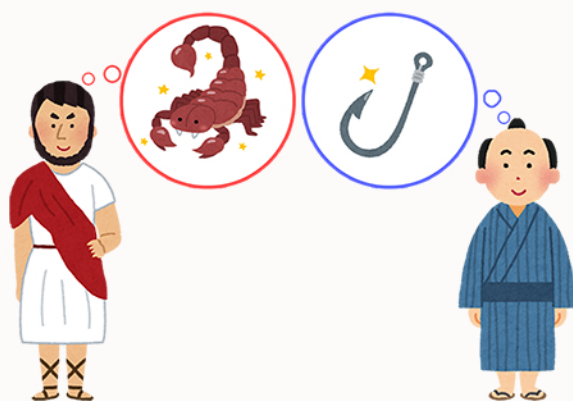
夏の星空に隠れた星の“群れ”

さそり座付近には、明るい星が比較的多く見られます。

これは、さそり座が天の川銀河の中心に近い方向にあることに加え、さそり座の上半身部分の星たちが「さそり座-ケンタウルス座OBアソシエーション」と呼ばれる若い星たちの群れの一部に属しているからです。

これらの星々は年齢が数百万歳程度で、同じガスの塊からほぼ同時期に生まれた兄弟姉妹の星たちだと考えられています。

満天の夏の星空を眺める際には、こうした星の群れの存在も意識して眺めてみると、面白く感じられるかもしれません。



星空に広がるさそり座-ケンタウルス座
OBアソシエーション

(上図①～③のアソシエーションで「さそり座-ケンタウルス座OBアソシエーションを構成している」)